

# アダージオ*ai*

災害2割加算型変額個人年金保険(アダージオ)

## 特別勘定の月次運用レポート 2024年3月末現在

- 市場概況
- 特別勘定の運用状況
- 組入投資信託の運用レポート

### 変額個人年金保険のリスクと手数料について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

- 受取総額が一時払保険料相当額を下回ること(元本割れリスク)があります。
  - 保険関係費用:ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.30%の割合で資産残高から毎日控除されます。90歳開始年金原資保証特約を付加した場合は特約分の保険関係費用(資産残高に対して年率0.05%)が別途必要になり、合計で年率2.35%の割合で資産残高から毎日控除されます。ただし、マネーファンドの保険関係費用には優遇措置(上限:年間100日まで)があります。
  - 運用関係費用:ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して最大で年率1.188%(税抜1.08%)程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。
  - 契約管理手数料:毎年の契約応当日の前日の資産残高が200万円未満の場合、前年の契約管理手数料として年額4,800円が契約応当日に資産残高から控除されます。全部解約時の資産残高が200万円未満の場合、解約の年の契約管理手数料として一律4,800円が解約時に控除されます。
  - 年金管理費:年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。
  - 解約控除:ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の全部解約、一部解約(ご契約または増額時から7年未満の元本総額の5%相当額までを除く)をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%~2%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。
- ※解約控除対象額は、全部解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

\*この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用(「保険関係費用」「運用関係費用)」と「年金受取期間中の費用(「年金管理費)」」の合計額となります。また、特定のお客さまには「契約管理手数料」や「解約控除」がかかります。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

### [引受保険会社] オリックス生命保険株式会社

本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。

ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

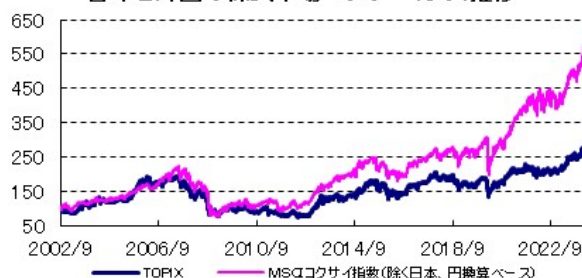
# 市場概況

代表的な指標の騰落率		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	3.07%	20.63%	26.72%	43.96%	38.35%
	TOPIX(東証株価指数)	3.47%	17.00%	19.16%	38.19%	41.69%
日本債券	NOMURA-BPI総合	▲ 0.11%	▲ 0.51%	0.37%	▲ 2.20%	▲ 4.98%
外国株式	MSCIコクサイ指数(除く日本、円換算ベース)	4.00%	15.34%	22.00%	41.25%	69.73%
外国債券	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	1.20%	5.04%	8.29%	15.80%	17.31%
外国為替	米ドル対円為替レート(仲値)	0.49%	6.75%	1.22%	13.39%	36.76%

日経平均株価(円)の推移



日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

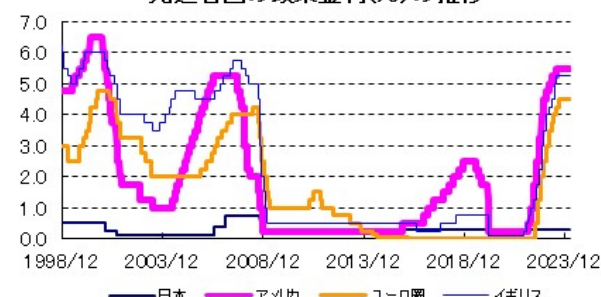


\*上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移



日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



\*上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社によって計算、公表されている、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産です。なお、同社は、当指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※運用状況については、組入投資信託の運用レポートをご覧ください。

- 当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

## 特別勘定(ファンド)グループ

### 特別勘定と投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計 (百万円)
	株式		債券				投資信託	現預金 その他	
	日本	外国	日本	外国					
日本株式ファンド SR	●				シュローダー日本株式オープンVA*	シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社	96.2%	3.8%	560
日本株式グロース ファンド FIA	●				フィデリティ・日本成長株・ ファンドVA1*	フィデリティ投信株式会社	95.4%	4.6%	1,809
日本株式インデックス ファンド UF	●				三菱UFJ TOPIX・ファンドVA1	三菱UFJアセットマネジメント 株式会社	96.4%	3.6%	2,712
日本小型株式 ファンド ML	●				JDF日本小型株ファンドVA*	ブラックロック・ジャパン株式会社	96.0%	4.0%	544
世界株式グロース ファンド AC	●	●			アライアンス・パースタイン・グローバル・ グロース・オポチュニティーズ-2*	アライアンス・ パースタイン株式会社	96.3%	3.7%	561
世界バランスファンド GSB	●	●	●	●	ダ・ヴィンチ VA2	ゴールドマン・サックス・アセット・ マネジメント株式会社	96.1%	3.9%	1,484
マネーファンド MB			●		三菱UFJ MRF (マネー・リザーブ・ファンド)	三菱UFJアセットマネジメント 株式会社	95.0%	5.0%	668

\* 適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

### 投資信託の運用方針

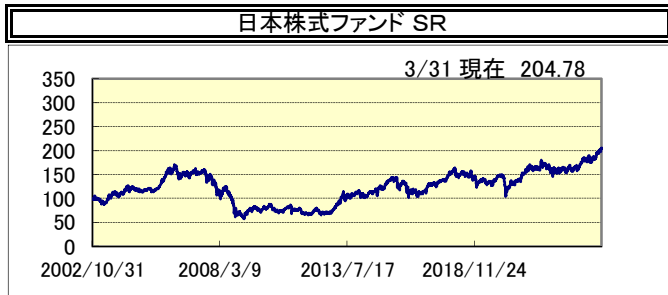
投資対象の投資信託	運用方針
シュローダー日本株式オープンVA*	主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX(東証株価指数、配当込み)を上回る投資成果の獲得を目指します。
フィデリティ・日本成長株・ ファンドVA1*	成長企業の株式に投資することにより、TOPIX(東証株価指数、配当込み)を上回る投資成果を目指します。市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業を独自の個別企業分析により選定し投資を行い、信託財産の成長を目指します。
三菱UFJ TOPIX・ファンドVA1	東京証券取引所に上場されている株式を主要投資対象として、TOPIX(東証株価指数)(配当込み)に連動する投資成果の獲得を目指します。
JDF日本小型株ファンドVA*	主に日本の上場株式の中小型株に投資し、Russell/Nomura Mid-Small Cap(配当込み)を上回る投資成果の獲得を目指します。中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安全性等を総合的に勘案し銘柄選定します。
アライアンス・パースタイン・グローバル・ グロース・オポチュニティーズ-2*	主に日本を含む先進各国の上場株式に投資し、世界株式市場の代表的指数であるMSCIワールド指数を上回る投資成果の獲得を目指します。成長性が高いと判断される「産業セクター」を選定し、当該「産業セクター」の中から成長性が高いと思われる銘柄に投資します。
ダ・ヴィンチ VA2	日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。
三菱UFJ MRF (マネー・リザーブ・ファンド)	内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保を目指します。投資対象とする有価証券は信用度が高く、残存期間が短いものとします。外貨建資産への投資については、円貨で約定・決済するもの(為替リスクの生じないもの)に限ります。

\* 適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

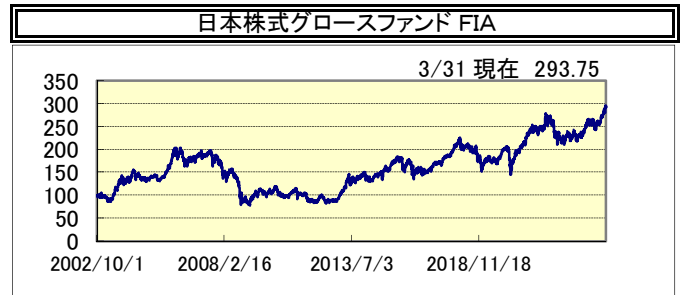
- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

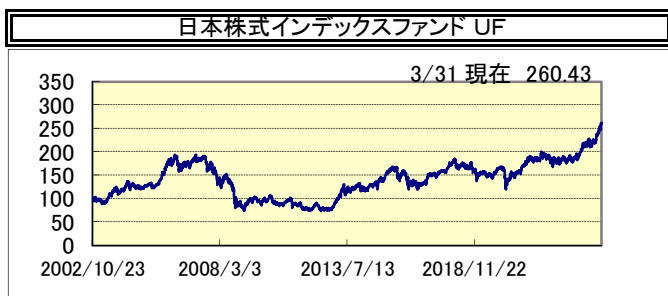
《90歳開始年金原資保証特約付》



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	2.26%	10.01%	11.43%	23.55%	22.74%	104.78%



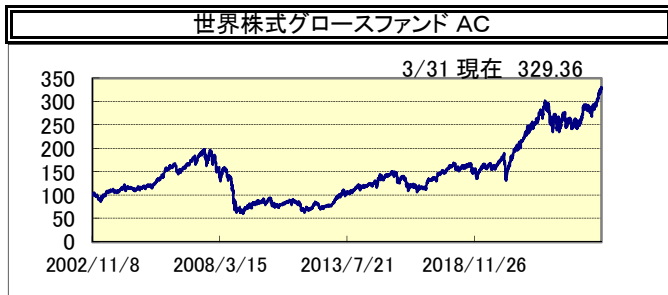
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	3.58%	13.06%	15.01%	24.31%	19.23%	193.75%



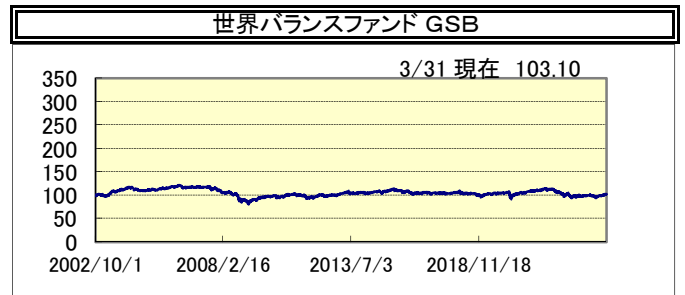
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	4.07%	16.76%	18.22%	36.08%	38.90%	160.43%



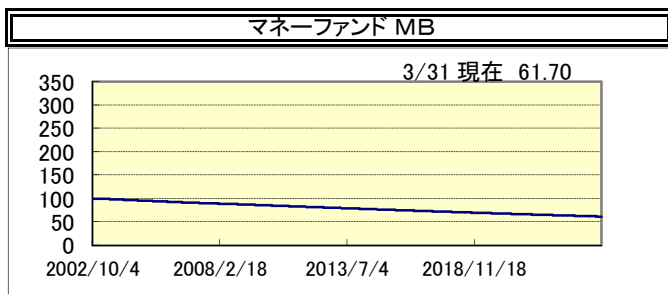
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	5.94%	16.48%	19.64%	34.57%	23.76%	198.42%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.78%	11.45%	16.62%	28.95%	35.05%	229.36%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	2.49%	3.31%	6.23%	4.74%	-5.58%	3.10%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	-0.19%	-0.58%	-1.16%	-2.32%	-6.80%	-38.30%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

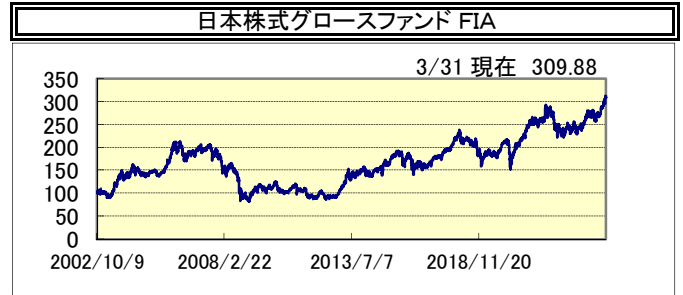
各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

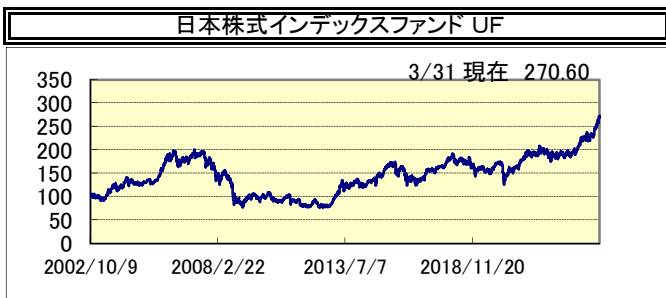
《特約無し》



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	2.27%	10.03%	11.46%	23.61%	22.93%	95.72%



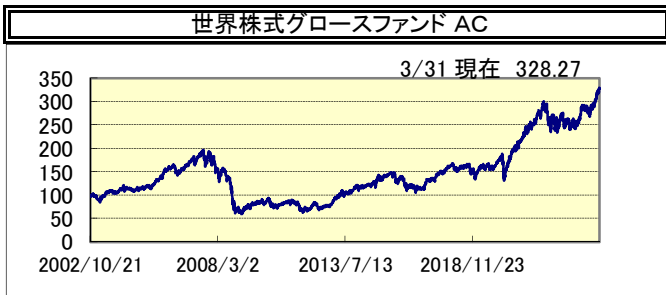
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	3.58%	13.08%	15.03%	24.37%	19.41%	209.88%



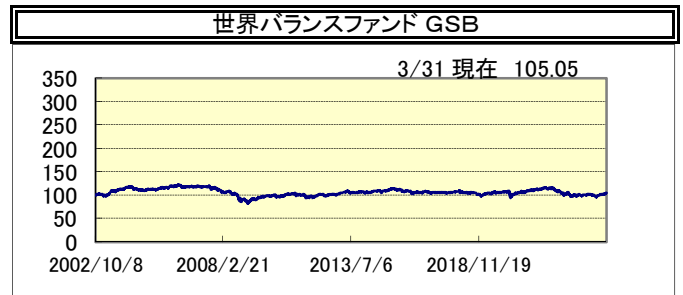
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	4.07%	16.77%	18.25%	36.15%	39.11%	170.60%



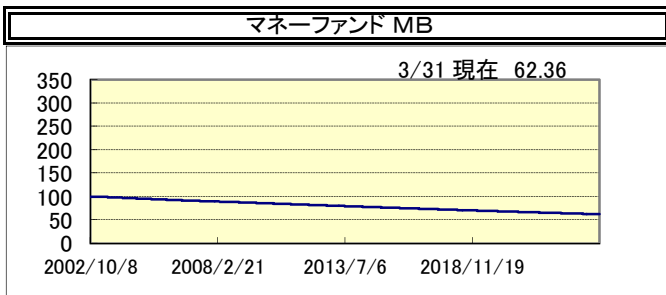
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	5.94%	16.50%	19.67%	34.63%	23.95%	200.08%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	1.78%	11.46%	16.65%	29.02%	35.26%	228.27%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	2.49%	3.32%	6.25%	4.79%	-5.44%	5.05%



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	-0.18%	-0.57%	-1.14%	-2.27%	-6.66%	-37.64%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式ファンド SR

【特別勘定が投資する投資信託】

シュローダー日本株式オープンVA(適格機関投資家専用)

【運用会社】

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

## 主要投資対象

日本の株式。主にシュローダー日本株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX(東証株価指数、配当込み)を上回る投資成果の獲得を目指します。

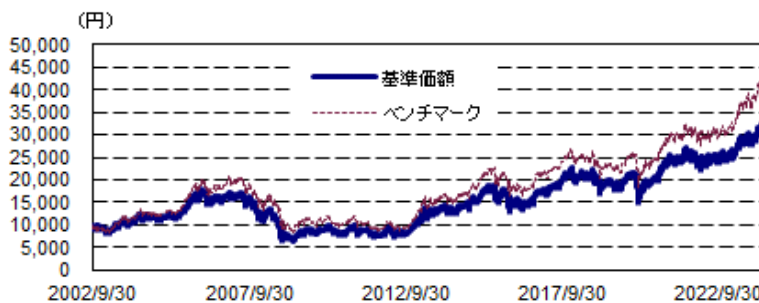
## ■ファンド状況

2024年3月29日現在

基準価額	33,115円	純資産総額	263(百万円)	組入銘柄数*	80銘柄
------	---------	-------	----------	--------	------

## ■設定来の基準価額とベンチマークの推移

\* マザーファンドの組入銘柄数



\* ベンチマークはTOPIX(東証株価指数、配当込み)です。  
\* 基準価額は税引前分配金を再投資した場合。

## ■基準価額(税引前分配金再投資)とベンチマークの騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.56%	11.09%	13.15%	27.35%	32.89%	231.15%
ベンチマーク	4.44%	18.14%	20.55%	41.34%	52.53%	356.71%

\* 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。分配金を再投資した基準価額の騰落率です。

## ■東証プライム株式組入上位銘柄

	銘柄名	業種	投資比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.07%
2	ソニーグループ	電気機器	4.27%
3	日本電信電話	情報・通信業	3.94%
4	豊田自動織機	輸送用機器	3.64%
5	スズキ	輸送用機器	3.63%
6	第一生命ホールディングス	保険業	3.57%
7	オリックス	その他金融業	3.14%
8	伊藤忠商事	卸売業	3.02%
9	東京海上ホールディングス	保険業	2.79%
10	キーエンス	電気機器	2.47%

## ■東証プライム以外の株式組入上位銘柄

	銘柄名	業種	投資比率
1	ハーモニック・ドライブ・システムズ	機械	0.60%
2	セブテーニ・ホールディングス	サービス業	0.43%
3	OBARA GROUP	電気機器	0.40%
4	日本電子材料	電気機器	0.34%
5	NITTOKU	機械	0.20%

※投資比率は、マザーファンドの投資比率と当ファンドが保有するマザーファンド比率より算出しております。

## ■組入状況

組入対象	投資比率
株式	98.69%
東証プライム	96.58%
東証スタンダード	1.98%
東証グロース	0.12%
地方単独	-
その他	-
株式先物	-
キャッシュ等	1.31%
計	100.00%

## ■組入上位業種

	業種名	投資比率
1	情報・通信業	15.18%
2	電気機器	13.29%
3	輸送用機器	10.16%
4	保険業	8.08%
5	機械	8.06%

## ■対ベンチマーク オーバーウェイト業種

	業種名	投資比率	ベンチマーク
1	情報・通信業	15.18%	7.25%
2	保険業	8.08%	2.72%
3	その他金融業	4.68%	1.19%
4	ガラス・土石製品	3.33%	0.69%
5	建設業	4.70%	2.08%

## ■対ベンチマーク アンダーウェイト業種

	業種名	投資比率	ベンチマーク
1	電気機器	13.29%	17.39%
2	卸売業	4.29%	7.41%
3	食料品	0.00%	3.08%
4	陸運業	0.00%	2.49%
5	サービス業	2.09%	4.48%

## ■過去の分配実績(税引前)

決算期	分配金
第18期(2019年11月20日)	0円
第19期(2020年11月20日)	0円
第20期(2021年11月22日)	0円
第21期(2022年11月21日)	0円
第22期(2023年11月20日)	0円

設定来累計	0円
-------	----

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。  
特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。  
各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。  
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

## 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式ファンド SR

【特別勘定が投資する投資信託】

シュローダー日本株式オープンVA(適格機関投資家専用)

【運用会社】

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

### 主要投資対象

日本の株式。主にシュローダー日本株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

### 運用方針

主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX(東証株価指数、配当込み)を上回る投資成果の獲得を目指します。

### ■マンスリー・コメント

3月は、日銀がマイナス金利の解除を決定したものの緩和的な金融環境は継続するとの見方の中、インフレ定着への期待が広がり3か月連続の上昇となりました。月の前半は、急ピッチの上昇から高値警戒感による利益確定の売りに押され、下落基調で推移しました。これまで相場を牽引してきた半導体関連株も売り優勢の動きとなり、調整色が強まりました。後半に入ると、19日の日銀金融政策決定会合でマイナス金利の解除が決定されたものの、日銀の緩和姿勢は当面継続するとの見方から持ち直しの動きとなりました。また、20日(現地時間)に開催された米FOMCにおいて市場予想通り利下げは見送られたものの、パウエル議長の発言はハト派スタンスと受け止められ日米ともに株式市場は堅調な動きとなりました。国内におけるインフレ定着の期待から、22日には日経平均は一時41,000円を上回る水準まで買われました。結局、月間でTOPIX(配当込み)は+4.4%と、3か月連続の上昇となりました。

東証33業種別騰落率ですが、上位5業種については不動産がトップ、石油・石炭製品、鉱業、電気・ガス、パルプ・紙が続きました。一方、下位5業種は海運がトップ、続いて、精密機器、医薬品、陸運、情報・通信となりました。今月もサイズ別では大型株が小型株をアウトパフォーム、大型株優位の相場が継続しました。

日本企業の業績に関してですが、円安効果もありFY23の着地については会社予想対比で上振れ着地となる見込みで、来年度についても4期連続の過去最高益の更新が見込まれる状況です。一方、マクロ面では、各国中央銀行による金利引き上げに伴う世界景気の減速懸念があります。日本株については、企業の設備投資は比較的堅調に推移しており、インバウンドを含めた内需の回復などを見込める状況ですが、目先は高値圏でのみみ合いを予想します。

日本企業は、2023年における自社株の取得枠が過去最高の9.6兆円となり、株主還元姿勢についてポジティブな変化が見られています。東証は資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を求めており、持合い株の解消や株主還元の積極化などガバナンス改革は中期的に進展すると判断できることから、日本株固有の支援材料になると見えています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。  
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。  
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。  
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式グロースファンド FIA

【特別勘定が投資する投資信託】

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA1 (適格機関投資家専用)

【運用会社】

フィデリティ投資株式会社

## 主要投資対象

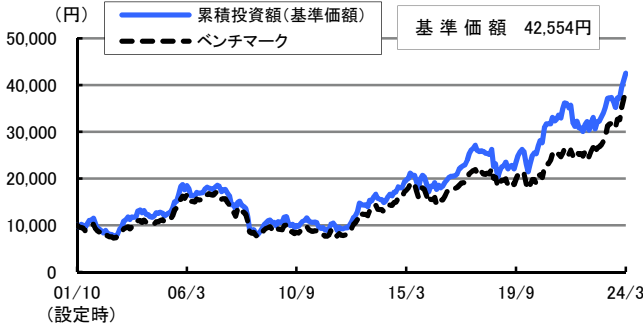
日本の上場株式。主にフィデリティ・日本成長株・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

成長企業の株式に投資することにより、TOPIX(東証株価指数)を上回る投資成果を目指します。市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業を独自の個別企業分析により選定し投資を行い、信託財産の成長を目指します。

## 設定来の運用実績

(2024年3月29日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

## 累積リターン

(2024年3月29日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.92%	14.22%	16.90%	28.14%	28.42%	325.54%
ベンチマーク	4.44%	18.14%	20.55%	41.34%	52.53%	285.57%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク: TOPIX(配当込)

\* TOPIX(配当込)は、日本の株式市場を広く網羅するとともに投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されており、配当を考慮したものです。

\* 東証株価指数(TOPIX) (以下「TOPIX」という。)の指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

## 過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第18期(2019.12.02)	0円
第19期(2020.11.30)	0円
第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円

## 純資産総額

17.6億円

(2024年3月29日現在)

## コメント

(2024年3月29日現在)

当月の東京株式市場は、日銀のマイナス金利政策が解除されてデフレ脱却期待が高まり、日経平均株価は史上最高値を更新しました。前月からの上昇の勢いを受け継ぎ、日経平均株価は月初に史上初となる4万円の台に到達しました。その後は半導体株の下落や、日銀の政策変更を睨んで円高が進んだことなどがマイナス要因となって反落を強いられましたが、春闘で昨年よりも高い賃上げ率が確認されてデフレ脱却期待が高まると、市場で日銀の政策転換の織り込みが進み、株価は力強く上昇しました。日銀はマイナス金利や長短金利操作、上場投資信託買入れなどの政策の終了を決定した上で、緩和的な金融環境を継続すると強調した一方、米連邦準備制度理事会は年内3回の利下げを行う方針を維持し、日米の金融政策決定会合が大方の事前想定通りに通過したことが株価を一段と押し上げました。日経平均株価は一時41,000円台に乗せるなど、終値で史上最高値を再び更新した後、月末にかけては利益確定売りや3月期決算企業の配当落ちの影響などからやや調整しましたが、そのま4万円台を維持して月を終えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+4.44%、日経平均株価は+3.07%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

## 組入上位10銘柄

(マザーファンド・ベース)

(2024年2月29日現在)

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.0%
2	キーエンス	電気機器	3.9%
3	東京エレクトロン	電気機器	3.8%
4	ソニーグループ	電気機器	3.3%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.1%
6	日立製作所	電気機器	3.1%
7	伊藤忠商事	卸売業	3.0%
8	信越化学工業	化学	2.9%
9	トヨタ自動車	輸送用機器	2.4%
10	東京海上ホールディングス	保険業	2.1%

(組入銘柄数: 178)

上位10銘柄合計 31.6%

(対純資産総額比率)

## ポートフォリオの状況

(マザーファンド・ベース)

(2024年2月29日現在)

### 資産別組入状況

株式	99.0%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	-
現金・その他	1.0%

### 市場別組入状況

東証プライム	96.4%
東証スタンダード	2.0%
東証グロース	0.5%
その他市場	-

### 組入上位5業種

電気機器	22.1%
銀行業	8.5%
化学	7.9%
輸送用機器	7.5%
卸売業	6.3%

(対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。  
\* 業種は東証33業種に準じて表示しています。  
\* 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。  
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。  
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。



# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】  
日本株式インデックスファンド UF

【特別勘定が投資する投資信託】  
三菱UFJ TOPIX・ファンドVA1

【運用会社】  
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

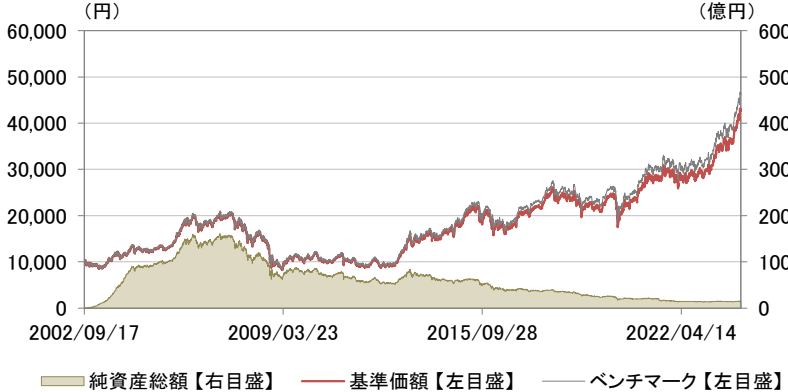
## 主要投資対象

東京証券取引所上場株式。主にTOPIXマザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

東京証券取引所に上場されている株式を主要投資対象として、TOPIX(東証株価指数)(配当込み)に連動する投資成果の獲得を目指します。

## ■基準価額および純資産総額の推移



■ 純資産総額【右目盛】 ■ 基準価額【左目盛】 ■ ベンチマーク【左目盛】  
\* 基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。  
\* ベンチマークは、設定日前営業日を10,000として指数化しています。  
\* 2019年10月1日に当ファンドのベンチマークを「配当除指数」から「配当込み指数」へ変更しました。

## ■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	4.4%	18.0%	20.3%	40.7%	50.5%	328.9%
ベンチマーク	4.4%	18.1%	20.5%	41.3%	52.5%	364.7%

\* 実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。  
\* また、換金時の費用・税金等は考慮していません。  
\* 設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。  
\* 分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

## ■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	42,894円
前月末比	+1,805円
純資産総額	15.54億円

## ■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第22期	2024/03/25	0円
第21期	2023/03/27	0円
第20期	2022/03/25	0円
第19期	2021/03/25	0円
第18期	2020/03/25	0円
第17期	2019/03/25	0円
設定来累計		0円

## ■資産構成

	比率
実質国内株式	99.8%
内 現物	98.2%
内 先物	1.6%
コールローン他	0.2%

## ■組入上位10業種

業種	比率	ベンチマーク 構成比
1 電気機器	17.1%	17.4%
2 輸送用機器	9.3%	9.5%
3 卸売業	7.3%	7.4%
4 銀行業	7.3%	7.4%
5 情報・通信業	7.1%	7.3%
6 化学	5.6%	5.7%
7 機械	5.5%	5.6%
8 サービス業	4.4%	4.5%
9 医薬品	4.2%	4.3%
10 小売業	4.1%	4.2%

## ■組入上位10銘柄

銘柄	業種	比率	ベンチマーク 構成比
1 トヨタ自動車	輸送用機器	5.2%	5.3%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.3%	2.4%
3 ソニーグループ	電気機器	2.3%	2.3%
4 東京エレクトロン	電気機器	2.1%	2.1%
5 三菱商事	卸売業	1.8%	1.8%
6 キーエンス	電気機器	1.7%	1.8%
7 日立製作所	電気機器	1.7%	1.7%
8 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.6%	1.6%
9 信越化学工業	化学	1.5%	1.5%
10 三井物産	卸売業	1.4%	1.4%

\* 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。\* 原則として、比率は純資産総額に対する割合です。\* コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。\* 業種は、東証33業種で分類しています。\* 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とは、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る商標又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するもので、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。  
\* 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。  
\* 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。  
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

## 【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

## 【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA(適格機関投資家専用)

## 【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

## 主要投資対象

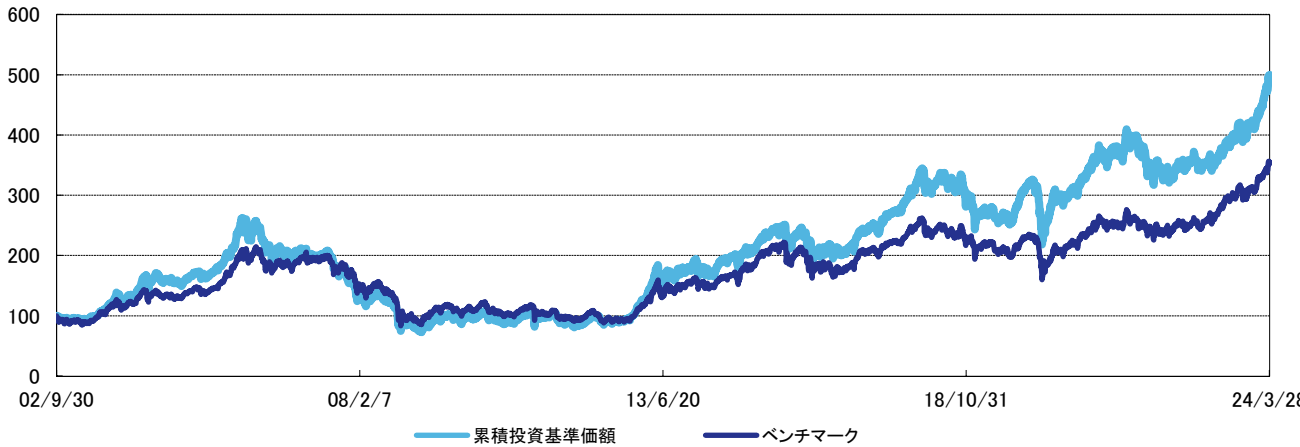
日本の証券取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap(配当込み)を上回る投資成果を目指します。

2024年3月29日現在 マンスリーレポート

## 累積投資基準価額の推移



※ 設定時を100とした指数値を使用しています。

※ 累積投資基準価額は税引前分配金を再投資したものととして算出しています。

※ ベンチマークは、Russell/Nomura Mid-Small Cap Index(配当込み)です。2022年6月11日に、当ファンドのベンチマークを「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」より「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index(配当込み)」に変更しました。このため、ベンチマークのデータは、設定時から2022年6月10日までの期間は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」の指数値に基づき、2022年6月11日以降は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index(配当込み)」の指数値に基づき記載しています。

## ファンドのパフォーマンス(%)

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	5年	設定来
ファンド	6.40	17.93	21.90	39.51	34.55	83.01	400.31
ベンチマーク	4.73	13.96	15.74	34.32	38.09	62.55	255.79

※ ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものととして算出した累積投資基準価額により計算しています。

※ ベンチマークは、Russell/Nomura Mid-Small Cap Index(配当込み)です。2022年6月11日に、当ファンドのベンチマークを「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」より「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index(配当込み)」に変更しました。このため、ベンチマークのデータは、設定時から2022年6月10日までの期間は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」の指数値に基づき、2022年6月11日以降は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index(配当込み)」の指数値に基づき記載しています。

## ファンドデータ

基準価額	50,031円
純資産総額	3.59億円
ファンド設定日	2022年9月30日

## Russell/Nomura Mid-Small Cap Index とは

RUSSELL/NOMURA日本株インデックスの投資スタイルの中のひとつで、フランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株式の指数です。当該指数に関する一切の知的財産権その他の権利はフランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しております。また、フランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

## 税引前分配金

分配金累計額	0円
第20期	2022年3月15日 0円
第21期	2023年3月15日 0円
第22期	2024年3月15日 0円

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

## 【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

## 【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA(適格機関投資家専用)

## 【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

## 主要投資対象

日本の証券取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

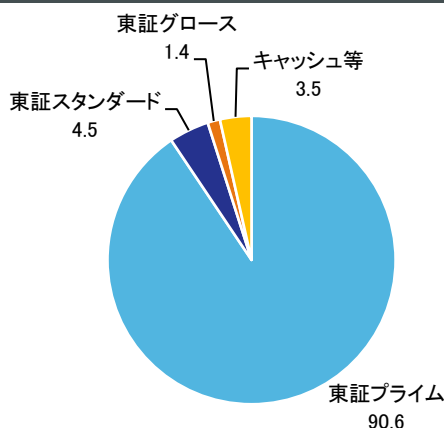
## 運用方針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap(配当込み)を上回る投資成果を目指します。

## 資産構成比率(%) \*

商品名	比率
株式	96.5
キャッシュ等	3.5
合計	100.0

## 市場別組入比率(%) \*



※非上場には新規上場予定銘柄(IPO)を含みます。

## 株式組入上位10業種(%) \*

業種	比率
1 建設業	9.2
2 情報・通信業	8.6
3 化学	8.1
4 小売業	7.9
5 電気機器	6.8
6 サービス業	5.3
7 機械	5.2
8 銀行業	5.0
9 食料品	4.1
10 陸運業	3.9

## 株式組入上位10銘柄(%) \*

銘柄名	業種	比率
1 ダイダシ	建設業	2.1
2 INPEX	鉱業	2.0
3 きんでん	建設業	1.9
4 日比谷総合設備	建設業	1.7
5 中国塗料	化学	1.6
6 パルカー	化学	1.6
7 東邦瓦斯	電気・ガス業	1.6
8 鴻池運輸	陸運業	1.6
9 森永製菓	食料品	1.5
10 鹿島建設	建設業	1.5

銘柄数 : 101

\* 比率は対純資産総額、マザーファンドベース。構成比率および組入比率(%)の数字は四捨五入の関係で合計が100にならない場合があります。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA(適格機関投資家専用)

【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

## 主要投資対象

日本の証券取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap(配当込み)を上回る投資成果を目指します。

## 月次コメント

### 1. 市場環境

3月の株式市場は、米インフレ再加速懸念が高まりFRB(米連邦準備制度理事会)の利下げが遅れるとの見方が強まったことや、日銀の金融政策正常化の見方が高まったことで相場は大きく下落する局面もあったものの、日銀によるマイナス金利解除発表後は、当面緩和的な金融環境が維持されるとの見方が広がり、34年ぶりの円安ドル高が好感され日経平均株価が先月に続き過去最高値を更新しました。結果としてTOPIXは3.5%の上昇となりました。一方、サービス業を中心に高バリュエーション銘柄の株価が軟調に推移したことから東証グロース市場250指数は3.4%の下落となりました。

### 2. 運用経過

当月は、良好な外部環境が継続する中で上方修正および増配が好感された空調工事会社、人手不足を背景に請負事業における需要拡大に伴う収益性改善への期待が高まった物流サービス会社、薬価改定における薬価引き上げによって業績拡大への期待が高まった医薬品メーカーなどがプラスに貢献しました。一方で所属タレントの契約解除に伴い業績への懸念が高まったアニメーション制作会社、前月までの株価上昇の反動から、利益確定売りが優勢となった半導体部品メーカーやクラウドサービス会社などがマイナスに影響しました。当ファンドでは株主還元強化の余地があると判断した中堅ガス会社、賃金上昇に伴い業績拡大への期待が高まると判断した人材紹介会社や、若年層による消費拡大による恩恵を享受できると判断したコンテンツ配信会社などを購入しました。一方で、株価上昇に伴い当面の業績拡大への期待が株価に織り込まれたと判断した総合ポンプメーカーや空調工事会社、民間鉄道会社などを売却しました。

### 3. 市場の見通し及び今後の運用方針

世界の株式市場で、今後利下げが想定される米金融政策や、長期にわたるマイナス金利政策を撤廃した日本の金融政策に関心が集まる中、今後も世界各国で跛行色が出てきた金融政策や実体経済に注目しています。また、とりわけ、日本経済に関しては、ミクロ面では東証の低PBR改革など企業がバナンス改善期待などが継続する中、引き続き各社の業績見通しや株主還元策にどのような変化が生じるかに関心を寄せています。加えて、長期に渡るデフレ環境から脱却した日本株に対する外国人投資家の再評価が今後も継続するかに注目しています。なお、企業のファンダメンタルズについては、製造業を主とする外需企業においては、今後循環的な外部環境の改善が期待される中で、新しいフロンティアとして注目を集めている生成AI技術の進展がエレクトロニクス業界に与える影響や、米中対立が及ぼすサプライチェーンの再構築の動き、中国景気の動向などが日本企業に与える影響が注目されます。一方で、内需関連企業では、春闘において物価上昇を超える賃金上昇が確認される中、実質賃金改善の持続性やそれが今後の個人消費にどのような変化をもたらすかに関心を寄せています。更に、日本の金融政策も正常化していく中でこれまでのマイナス金利政策の下で長期にわたって低迷してきた金融セクターが今後回復していく可能性や、かつては厳しい価格競争にさらされてきた土木・建設業界でも供給力に限界があることから採算重視の受注獲得を志向するようになっており、また、リショアリングと呼ばれる地政学リスクを背景とした生産拠点の再構築の動きが見られる中で、半導体等のハイテク産業の積極的な工場建設による今後の需要拡大や利益率の改善が期待される等、従来は成長産業とはみなされていなかったような伝統的な産業でも大きな構造的な変化が進んでいる可能性があり注目しています。また、中期的には、世界規模で脱炭素に向けた取り組みが加速していくと見込まれる中、経済・産業構造にどのような変化が生じていくのかが注目されます。なお、環境対策のほか、生産性改善を目的とした企業再編やデジタル化への取り組みは、少子高齢化や人口減少が進む日本にあって経済成長に必要不可欠であると考えています。特に投資家の注目度が低い中・小型株式市場は、潜在的な利益成長の可能性があるにもかかわらず、低位なバリュエーション水準に放置されている企業が散見される他、独自の成長を続けている企業も多く、依然として魅力的な投資対象であると考えています。引き続き、従来の価値観にとらわれることなく、産業構造や個別企業の「変化」にいち早く着目し、未だ市場において認識されていない高い成長の可能性を持つと考えられる銘柄を積極的に組み入れていきたいと考えています。

※「3. 市場の見通しおよび今後の運用方針」については、当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。また将来について保証するものではありません。

当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界株式グロースファンド AC

【特別勘定が投資する投資信託】

適格機関投資家私専

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ2

【運用会社】

アライアンス・バーンスタイン株式会社

## 主要投資対象

主に先進各国の証券取引所上場株式。主にアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

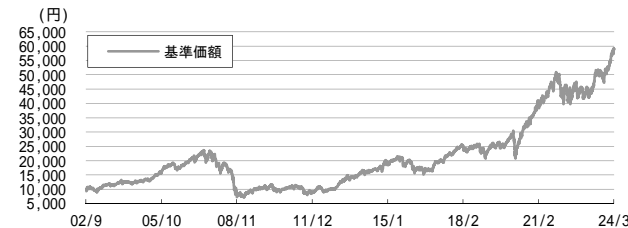
## 運用方針

主に日本を含む先進各国の上場株式に投資し、世界株式市場の代表的指数であるMSCIワールド指数を上回る投資成果の獲得を目指します。成長性が高いと判断される「産業セクター」を選定し、当該「産業セクター」の中から成長性が高いと思われる銘柄に投資します。

## 基準価額の推移と運用実績

### 基準価額の推移

(1万口当たり)



### 基準価額／純資産総額

基準価額	59,067円	純資産総額	3億37百万円			
《基準価額騰落率》						
	1か月間	3か月間	6か月間	1年間	3年間	当初設定来*
ファンド	2.0%	12.5%	18.6%	33.2%	46.3%	490.7%
ベンチマーク	4.2%	15.9%	22.6%	43.5%	75.6%	747.0%
円/米ドルレート	0.5%	6.8%	1.2%	13.4%	36.8%	23.5%

\*当初設定日：2002年9月30日

※ベンチマークはMSCIワールド・インデックス(配当込み、円ベース)です。  
※基準価額およびその騰落率は、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。また、データは過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

## マザーファンドのポートフォリオの状況

※組入比率は、全て対純資産総額の比率です。

### セクター別配分

セクター	比率	セクター	比率
情報技術	34.8%	現金等	1.8%
資本財・サービス	18.2%		
ヘルスケア	18.0%		
金融	15.1%		
生活必需品	5.4%		
一般消費財・サービス	3.2%		
公益事業	2.5%		
エネルギー	0.9%		
			100.0%

### 資産配分

株式等	98.2%
(内訳) 国内株式	2.4%
外国株式	95.8%
現金その他	1.8%

※小数点第2位以下を四捨五入しています。

※セクター別配分は、MSCI/S&PのGlobal Industry Classification Standard(GICS)の分類で区分しています。

※国別配分は、発行体の国籍や事業基礎等を考慮して区分しています。

※組入上位10銘柄は、当ファンドの運用内容の説明のためのものであり、アライアンス・バーンスタイン株式会社が推奨または取得のお申込みの勧誘を行うものではありません。

### 国別組入比率

国	比率	国	比率
アメリカ	65.4%	インドネシア	1.5%
イギリス	9.0%	カナダ	1.5%
オランダ	4.4%	その他の国	3.0%
スイス	3.3%	現金等	1.8%
ドイツ	2.9%		
インド	2.4%		
日本	2.4%		
台湾	2.3%		
			100.0%

### 組入上位10銘柄

(銘柄数: 54 銘柄)

銘柄名	セクター	国	比率
1 マイクロソフト	情報技術	アメリカ	3.3%
2 VISA	金融	アメリカ	3.2%
3 ウェイスト・マネジメント	資本財・サービス	アメリカ	3.1%
4 エヌビディア	情報技術	アメリカ	2.6%
5 アイコン	ヘルスケア	アメリカ	2.5%
6 ネクステラ・エナジー	公益事業	アメリカ	2.5%
7 MSCI	金融	アメリカ	2.3%
8 アクセンチュア	情報技術	アメリカ	2.3%
9 台湾セミコンダクター	情報技術	台湾	2.3%
10 ASMLホールディング	情報技術	オランダ	2.3%
			(組入上位10銘柄計) 26.4%

## 市況

2024年3月の世界の株式市場は前月末比で上昇しました(米ドルベース)。米国株式市場は、堅調な企業決算や利下げに対する楽観的な見方などを背景に、月を通じて堅調に推移しました。米連邦準備理事会(FRB)による年内3回という利下げ見通しが維持されたこととFRB議長によるハト派発言が好感され、主要株価指数が最高値を更新しました。欧州株式市場は、経済が緩やかに回復に向かうなか、利下げに対する楽観的な見方を背景に、上昇基調で推移しました。日本株式市場は、月初は上昇したものの、その後、日銀の金融緩和策解除の観測から急速に円高が進むと、輸出関連株を中心に売られました。月後半は、円安が進行したことから、再び上昇基調となりました。月末はやや売られる展開となりました。

為替市場では、円安米ドル高となり、2024年3月29日の基準価額の算定に使用するレートは1米ドル=151円41銭(2024年2月29日:150円67銭)となりました。

- ・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド GSB

【特別勘定が投資する投資信託】

ダ・ヴィンチ VA2

【運用会社】

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

## 主要投資対象

日本を含む世界各国の株式・債券および円短期金融商品。主にダ・ヴィンチ マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

## 運用方針

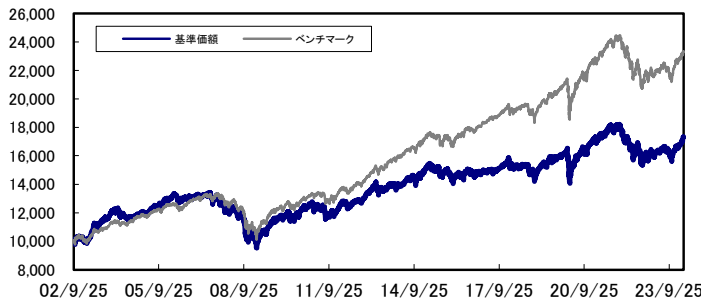
日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100%円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。

基準日： 2024年3月29日

## 運用の特徴

- 主としてマザーファンドへの投資を通じて、日本を含む先進国を中心とした世界の株式、債券と円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。
- 本ファンドのベンチマークは、MSCIワールド・インデックス40%+JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル)40%(ともに為替円ヘッジ、円ベース)+日本円1か月TIBOR 20%を使用しております。
- 為替は100%円ヘッジを基本としています。
- 資産配分比率、株式・債券・通貨の国別配分比率の変更を行い、収益の向上を目指します。
- コンピューター・モデルを用いた計量運用を行います。
- 本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。

## 設定来の実績 (2002年9月25日)



(注)上記のグラフは基準価額(信託報酬控除後、課税前分配金再投資)およびベンチマークを、設定日を10000として指数化した実績です。

## 騰落率

	実績	ベンチマーク
過去1ヶ月	2.74%	1.39%
過去2ヶ月	3.30%	2.62%
過去3ヶ月	4.00%	2.83%
過去6ヶ月	7.65%	7.77%
過去1年	7.34%	6.20%
過去2年	0.01%	-0.81%
過去3年	0.90%	2.31%
設定来	73.48%	133.61%

(注)分配金再投資の基準価額の騰落率です。  
下記※もご覧ください。

## 資産構成

	基本アセットミックス	ファンド
世界株式	40.0%	45.3%
世界債券	40.0%	41.7%
円短期金融商品	20.0%	13.0%
合計	100.0%	100.0%

## 基準価額および純資産総額

基準価額	17,348円
設定来分配金	0円
純資産総額	3.5億円

(注)基準価額は分配落ち後のものです。

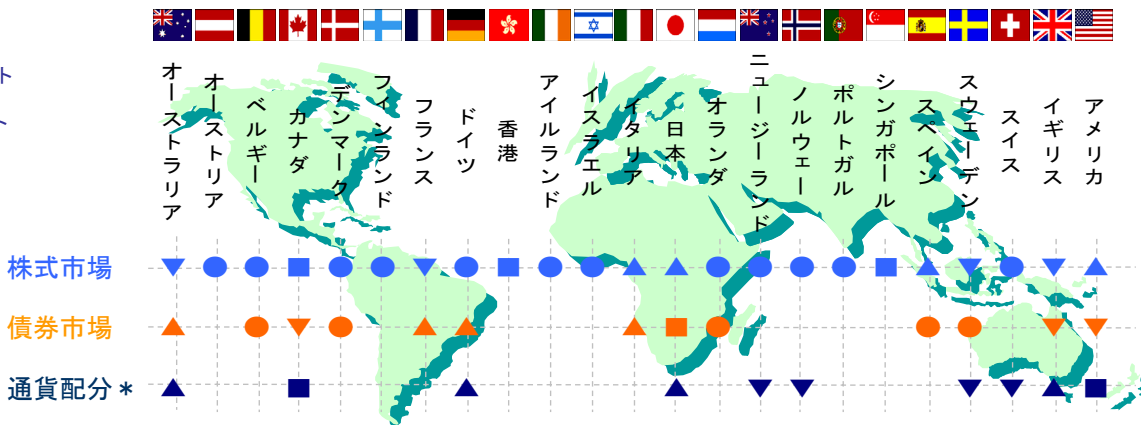
※上記の基準価額、分配金再投資基準価額およびファンドの期間別騰落率は信託報酬控除後のものです。分配金再投資基準価額およびファンド(分配金再投資)の騰落率は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。本ファンドの騰落率をベンチマークと比較して評価することは、特に1年未満程度の短期間については資産の評価時点や評価が為替レート等の差異の影響が相対的に大きく、必ずしも適切でない場合がありますのでご注意ください。また、ベンチマークには直接投資することはできず、費用や流動性等の市場要因なども考慮されておられません。

## ポジション(リバランス時)

- ▲ オーバーウェイト
- ▼ アンダーウェイト
- 上下 1%未満

\* ユーロにつきましては、ドイツで表記しております。

※●印のついている部分は、ベンチマーク構成国ではあるがリバランス時点でファンドに組入れていないものです。



・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

## 【特別勘定名】

## 世界バランスファンド GSB

### 【特別勘定が投資する投資信託】

ダ・ヴィンチ VA2

### 【運用会社】

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

### 主要投資対象

日本を含む世界各国の株式・債券および円短期金融商品。主にダ・ヴィンチ マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

### 運用方針

日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。

基準日： 2024年3月29日

## 2024年3月の市場動向

◎3月の世界株式は3.4%程度の上昇(MSCI世界株式指数;配当込;現地通貨ベース)となりました。3月の世界株式市場は上昇傾向となりました。国別に見ると、アメリカでは約3.2%の上昇、ドイツでは約4.0%の上昇、フランスでは約3.3%の上昇、イギリスでは約4.6%の上昇となりました。日本国内の株式は約4.3%の上昇となりました。

◎3月の世界債券は0.7%程度の上昇(JPモルガン世界国債指数;現地通貨ベース)となりました。3月の世界債券市場は上昇傾向となりました。国別に見ると、アメリカでは約0.7%の上昇、ドイツでは約0.9%の上昇、イギリスでは約1.8%の上昇となりました。日本国内の債券は約0.1%の上昇となりました。

## 投資対象の評価(リバランス時)

### 〈資産クラス間配分〉\*

資産クラス間配分では、世界株式はモメンタムの観点で評価が高いことから、円短期金融商品に対して強気の見通しとしている。世界債券はモメンタムの観点で評価が低いことから、円短期金融商品に対して弱気の見通しとしている。大型株/小型株の配分に関しては、大型株に対してやや強気の見通しとしている。大型株はモメンタムの観点で評価がやや高いことからやや強気の見通しとしている。一般優良株/テクノロジー株間の配分に関しては、モメンタムの観点からテクノロジー株に対して強気の見通しとしている。

### 〈株式国別配分〉

株式国別配分においては、日本やスペインに対して強気の見通しとする一方で、オーストラリアやフランスに対して弱気の見通しとしている。日本に対しては、モメンタムおよびマクロの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。スペインに対しては、バリュエーションの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、オーストラリアに対しては、バリュエーションおよびリスク・プレミアムの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。フランスに対しては、リスク・プレミアムおよびモメンタムの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。

### 〈債券国別配分〉

債券国別配分においては、イタリアやオーストラリアに対して強気の見通しとする一方で、アメリカやカナダに対して弱気の見通しとしている。イタリアに対しては、バリュエーションおよびマクロの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。オーストラリアに対しては、マクロの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、アメリカに対しては、マクロおよびバリュエーションの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。カナダに対しては、マクロおよびバリュエーションの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。

### 〈通貨配分〉

通貨配分においては、ユーロ圏やオーストラリアに対して強気の見通しとする一方で、日本やスイスに対して弱気の見通しとしている。ユーロ圏に対しては、リスク・プレミアムおよびモメンタムの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。オーストラリアに対しては、マクロおよびリスク・プレミアムの観点で評価が高いことから強気の見通しとしている。一方、日本に対しては、モメンタムおよびマクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。スイスに対しては、リスク・プレミアムおよびマクロの観点で評価が低いことから弱気の見通しとしている。

※ 円短期金融商品…一般的に割引国債、コールローン等を指します。また、非円建ての短期金融商品に投資しこれを円ヘッジする場合もあります。本資料中の資産構成、投資対象の評価等は、過去の一時点におけるものであり、以後変更される場合があります。

\* 株式/債券/円短期金融商品間の資産配分、大型株/小型株間の配分および一般優良株/テクノロジー株間の配分を含みます。

MSCIおよびMSCIの情報の編集、計算、および作成に関与するその他すべての者(以下総称して「MSCI当事者」といいます)は、MSCIの情報について一切の保証(独創性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性を含みますが、これらに限定されません)を明示的に排除します。MSCI、その関連会社およびMSCI当事者は、いかなる場合においても、直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害、懲罰損害、派生的損害(逸失利益を含みます)およびその他一切の損害についても責任を負いません。MSCIの書面による明示的な同意がない限り、MSCIの情報を配布または流布してはならないものとします。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

# 組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】  
マネーファンド MB

【特別勘定が投資する投資信託】  
三菱UFJ MRF(マネー・リザーブ・ファンド)

【運用会社】  
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

## 主要投資対象

国内外の公社債、CP等の短期金融商品。

## 運用方針

内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保を目指します。投資対象とする有価証券は信用度が高く、残存期間が短いものとします。外貨建資産への投資については、円貨で約定・決済するもの(為替リスクの生じないもの)に限ります。

2024年3月29日現在

## ■資産構成

	評価金額(円)	比率
公社債	0	0.0%
（うち固定債）	(0)	0.0%
（うち変動利付債）	(0)	0.0%
短期金融資産	423,432,000,000	62.2%
（うちコールローン）	(354,432,000,000)	52.1%
（うちCD）	(0)	0.0%
（うちCP）	(0)	0.0%
（うち現先・レポ）	(69,000,000,000)	10.1%
（うち割引手形）	(0)	0.0%
その他資産	257,000,847,555	37.8%
純資産総額	680,432,847,555	100.0%

・固定債：変動利付債以外の債券。

## ■基準価額および純資産総額

基準価額	10,000円
純資産総額	6,804.33億円

## ■ポートフォリオ特性

平均残存日数	15.7日
--------	-------

## ■国内(邦価建)公社債(新株予約権付社債(転換債)を除く)明細表

	額面金額(円)	評価金額(円)	残存期間別組入比率			
			1年未満	1年以上	2年以上	5年以上
国債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地方債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特殊債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金融債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
普通社債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## ■債券の格付分布

格付種類	比率
AAA格	0.0%
AA格	0.0%
A格	0.0%
BBB格	0.0%
BB格以下	0.0%
無格付	0.0%

## ■短期金融商品(CP・CD)の格付分布

格付種類	比率
A-1格	0.0%
A-2格	0.0%
A-3格	0.0%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・比率は経過利子等を債券時価に含まず算出しております。・平均残存日数は組入銘柄の純資産総額に対する比率で加重平均しています。・変動利付債の残存日数は、次回利払日までとして計算しています。・特殊債とは独立行政法人、公庫等の政府関係機関等、いわゆる特殊法人や特殊団体が特別の法律に基づいて発行する債券の総称です。・格付は、R&I、JCR、S&P、Moody'sのうち最も低い格付を表示しています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。  
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。  
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。  
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。